公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第85号

ときめき家族登山2024 in高房山　8月11日（日）

荒武 八起

宮崎支部では子供たちの山への興味を育むために1998年(平成10年)より「子供登山教室」を開始し、中でも平成14年からは一泊二日の日程で実施してきた。この子供登山教室は、保護者を含まず子供だけの参加としてきたが、保護者なしでの実施は仮に事故などのトラブルが発生した場合、後々に問題が残るとの懸念により、2017年(平成29年)からは、名称を「ときめき家族登山」として家族ぐるみの参加を呼びかけることにした。趣旨は登山の体験を家族全員で共有し家庭におけるコミュニケーション、そして思い出作りに役立てていただくことである。

第一回は2017年8月に霧島山系大浪池の周回コースに家族24名を会員21名で案内し、第二回は2018年9月高房山に家族33名を会員21名のサポートで登った。しかし、2019年10月の島野浦・遠見場山への計画は台風接近のため、そして、翌年からはコロナの影響で中止が続いた。第三回目となった今回は実に6年ぶりの開催であった。連日35度を超える猛暑にも関わらず子供2名を含む家族6名の応募者を会員17名で案内できたことは有難いことであった。

目指す高房山は宮崎市高岡町の西方にあり、標高こそ337.4mと低いが稜線が長く往復約5時間を要する。瓜田ダム管理棟駐車場における開会式では、まず日高支部長から山の日制定の趣旨を含めた挨拶があった。続いて武田山行委員長によるコースの説明や注意事項などの後、記念撮影、準備体操をして出発した。林道を10分ほど歩き登山道に踏み入る。頂上までは木漏れ日の射す照葉樹林の中なので直射日光から逃れることができるがやはり暑い。時折吹き抜ける風に有難さを感じつつひたすら歩く。この山は秋になると椎の木の根元にヤッコソウが可愛い姿を見せるが、今は幾重にも降り積もった落ち葉の下で、その出番をひっそりと待っているかのようだ。周囲の植生についての解説を聞きながら汗を拭きつつ行くとようやく雑木の林立する山頂に着いた。記念写真に納まりもと来た道を引き返す途中、林道として開かれた広場で昼食をとった後、前原会員が準備したネーチャーゲームとなる。ビンゴ形式の用紙にキーワードがあり、それに相応するものを五感を働かせながら探し出していくというもので結構楽しかった。

下山すると多田会員をはじめ後方支援の会員がアイス(白熊)を準備して出迎えて下さった。美味しそうに食べる子供たちを見ながら我々もいただいた。体は冷えてきたが、心には熱いものがこみ上げてきた。閉会式の後、山の歌を歌って解散となった。ケガ一つなく無事に終えたこと、そして参加して頂いた皆様、下見など様々な準備に尽力された会員に感謝しつつ帰途についた。

＜参加者17名＞清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・川越怜奈・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・弓削達雄・山上章二：公募参加者6名

ときめき家族登山の感想

櫻木 力斗(中2)

先日、ときめき家族登山in高房山に参加しました。人生初の登山は素晴らしい時間となり、誘ってくれた祖父に感謝しています。

僕がこの体験を通して感動したことは二つあります。

一つ目は、高房山の自然です。高房山は、様々な種類の木やたくさんの生き物、都市部では味わうことのない新鮮な空気、そのすべてを楽しむことができました。たびたびあった木の説明は大変興味深かったです。昼食後のネイチャーゲームも、普段は気づくことのできないことに目を向けることができました。少し難しいものもありましたが、家族と楽しんで見つけることができました。

二つ目は、皆さんの優しさと声掛けです。登りの時に、ついていけなくなっても、先頭にいた方々が止まってくださり「頑張れ。」と声かけてくださいました。また、昼食の時も、スポーツゼリーをいただいて、それがとてもおいしかったことを覚えています。下りの時も、落ち葉で滑りそうになった時、「大丈夫？」と心配してくださり、心が温かくなりました。

今回のときめき家族登山in高房山はとても良い夏休みの思い出になりました。またこのような機会があれば、ぜひ家族そろって行きたいと思います。

元気に高房山山頂到着

前原会員の樹木の説明を聞く

櫻木 瑛斗(小2)

山のぼりの前の日、リュックににもつをつめました。はじめてなので、とてもわくわくしました。朝早くあつまって、山のぼりのせつめいを聞きました。ハチやアブがちかくにきたら、手ではらわないで、いなくなるのをじっとまつと教えてもらいました。のぼりはじめて、ガイドの人がぼくに何回も声をかけてくれました。「気をつけてね」とやさしくしてくれました。山のちょう上について、お昼ごはんを食べました。こんなにおいしいおにぎりを食べたのははじめてでした。いっしょにのぼった人たちから、おかしやゼリーをもらいました。みんなやさしかったです。ひるごはんのあと、ネーチャーゲームをしました。きのこや、ふわふわしているものなどをみつけるビンゴでした。ぼくが口ぶえで、鳥の声をまねしたら、みんながわらってくれました。山をおりる時は、葉っぱですべるから、気をつけて歩きました。とうちゃくしたら、ごほうびにアイスをもらいました。あつかったので、体がすずしくなりました。足はつかれたけど、とても楽しい山のぼりでした。

ときめき家族登山に参加して

櫻木 勉

何時か家族登山に孫たちと参加したいと思っていましたが今回コロナも5類に移行となり久しぶりに高房山にて開催され、家族6人で参加できて想いが叶いました。妻も孫たちが登れば私も頑張ると挑戦しましたが（水泳でのトレーニングは実施していたが）膝が泣いて7合目でギブアップでした。年齢には勝てません（わくわく登山が冷や冷や登山）3人の会員のサポートで無事下山できました。体調を整え再挑戦したいと思います。

孫たちも皆様のサポートで元気に頂上を目指すことが出来ました。自然の偉大さと困難を乗り越えて得られる達成感の大切さを学んで、次の山への親しみを持ってほしいものです。

家族6人共々大変お世話になり有難うございました。今回は環境（猛暑・地震・コロナ再発など）の厳しい状況でしたが会員それぞれが役割を果たされ、熱意に感動しました。今後とも山の日のイベントとして多数の参加者を募り盛り上げてください。

ヤッコソウ

(memo)
高房山には世界的にも大変珍しい植物ヤッコソウ（天然記念物）が分布しています。薄いピンク色でやっこに似ているのでその名が付きました。シイの根から栄養をとっている寄生植物です。そのためシイがなくなると生きていけなくなる植物です。

【第37回全国支部懇談会・神奈川】5月25日（土）～26日（日）

橋口　三枝子

第37回全国支部懇談会が神奈川支部主管で平塚市のグランドホテル神奈中で開催された。宮崎支部からは3名が参加。今回は第一回となる岡野金次郎碑前祭も同時に行われた。宮崎ウェストン祭しか知らない私は楽しみに参加した。

岡野金次郎　碑前祭 25日（土）

13時よりチャーターバスにて順次、岡野金次郎の顕彰碑がある会場、湘南平（平塚市高麗山公園）に移動する。高台にありテレビ塔展望台とレストハウス展望台があり相模湾、富士山、丹沢山系などの絶景が楽しめる。午後3時よりの式典には岡野金次郎氏のご子孫と小島烏水氏のご子孫も参加された。

岡野金次郎(1874年～1958年)は横浜に生まれ明治25年、18歳の時、尊仏山(塔ノ岳)に登ったのが最初とされる。小島烏水との運命的な出会いで交友が始まり明治35年に無理と言われた槍ヶ岳に登った。その後すぐにウェストンが自分たちより先に、しかも外国人が登ったことが思いもよらなかった。ウェストンもまた、日本にも槍へ挑戦する青年がいることを喜び、この出会いがその後の山岳会設立を早めたのではないかと言われる。

式典は神奈川支部長の挨拶から始まり、平塚市長、日本山岳会会長と続いた。献花を、岡野家、小島家のご子孫が行い碑の前で祖先を偲ばれた。その後、神奈川支部の高橋あかね会員が「小諸馬子唄」をフルートの演奏で披露され聴き入った。最後に山岳祭プロジェクトリーダーの坂井氏の結びの言葉があり第1回の岡野金次郎碑前祭が終了した。

今回の祭典はふだん宮崎からは遠く参加することが難しいが、全国支部懇談会に合わせて行われたことは幸いでよい体験となった。

懇親会は18時20分よりグランドホテル神奈中で行われた。神奈川支部長・込田伸夫氏の挨拶があり、東海支部の尾上昇氏の乾杯で酒宴となった。約134名が集う宴会場はいつもながら他支部との久しぶりの再会を喜ぶ姿があちこちで見られた。宮崎支部は千葉支部と同じテーブル、その中に九州5支部大会で「ミニヤコンカ奇跡の生還」を講演された松田宏也氏（本部理事）も同席されて気さくに話をすることができた。お酒を酌み交わしながら他支部との生の声を聴くことができる全国支部懇談会ならではの体験である。また、越後支部からは記念事業としてアジア山岳連盟も参加して高頭祭と弥彦山タイマツ登山祭の参加案内もあった。

最後に次回38回の全国支部懇は関西支部　大阪で10月26日（日）～27日（月）を予定していると報告があった。

＜参加者3名＞栗林淳子・橋口三枝子・武田芳雄

橋本しをり会長挨拶

岡野金次郎碑　献花

グランドホテル神奈中での懇親会

鎌倉大仏～源氏山～鎌倉寺院巡り　26日（日）

全国支部懇2日目は記念山行でAコースの三浦アルプス、Bコース鎌倉ハイキング、Cコース自由行動で我々はBコースにする。ホテルロビーに8時集合、各支部から約45名が参加、班ごとに平塚駅より順次電車を乗り継ぎ、江ノ電を長谷駅で下車する。案内をしてくださるのは神奈川支部の早川正志氏。まずは国宝である「鎌倉大仏」台座を含め13m、間近で見る大仏は迫力があり、優しい微笑みに心が和む。そこから街を10分程歩き源氏山へ向かう。トンネル手前が登山道となる。木の階段がしばらく続く。標高90mほどだが緑も美しくプチ登山の楽しさが味わえる。50分程登るといきなりコンクリートの道が現れそして民家がある。こんな山の上に民家があることに驚いたがその先には源氏公園があり別のルートから車で来れるようだ。源氏山公園は山頂一帯を切り開き造られた自然公園となっていて源頼朝の銅像がある。ここで昼食を済ませ化粧坂を下る。まず海蔵寺は「花の寺」として知られ、手入れの行き届いた見事な庭園で四季折々の花が絶えることがないと言われている。そこで目に付いたのは鮮やかなピンクのマツバギクだった。寺の奥に進むとお堂の岩肌にはイワタバコ、せせらぎにカラーの花、池にはスイレンが咲いていた。岩船地蔵堂や亀ヶ谷切通と進む。寿福寺は源頼朝が没した翌年、妻の北条政子が建立した寺で源実朝、母・北条政子の墓と言われる五輪塔があり手を合わせる。

ゴールの鎌倉駅に13時に着き解散となった。短い時間ではあったが山歩きや鎌倉の美しい奥座敷に触れて充分に楽しんだ記念山行だった。宮崎支部の名札を見ていろんな方に声をかけてもらい心に残る神奈川での全国支部懇だった。

帰路は鎌倉駅より武田さんと（栗林さんは所要のため一足早く帰宮）慣れない都会の電車を乗り継ぎ、羽田で搭乗手続きを済ませるとやっとホットする。いつもは付いて行くばかりだったのでこれはこれで恥ずかしながら良き体験となった。　＜参加者2名＞橋口三枝子・武田芳雄

源氏公園にて

全国支部懇関連山行・矢倉岳　5月24日（金）

畑島　良一

神奈川丹沢山地と箱根山地の間に位置する足柄山地は静岡県東部に接している。
「金太郎」として知られる坂田公時はこの地で育ち、金時山やよく現れる熊と対峙した伝説として言い伝われている。

矢倉岳はお椀を伏せた山容で下部からの登山は厳しそうだ。我々は金時山からの稜線・万葉公園（万葉和歌の碑や鳥の水呑場が随所にある）。標高差450mから入山、9時20分に出発した。往復10㎞程の緩やかな尾根。季節ごとに目を和ませてくれるそうだ。「ヤマツツジ」「ウツギ」「カエデ」「トリカブト」等が観られる。低木や針葉樹林の間からは矢倉岳が見渡せる。斜面には登山者用か林業用か分からぬロープも数か所設置されている。「山伏峠」からは、振り返れば富士山が和ませてくれる。近くには黄色い「エビネ蘭」が保護されている。

サンショウバラ

エビネ蘭

山頂はベンチもある広々とした広場で、我々のほぼ独占状態。目の前には、金時山、箱根の噴煙を上げる涌井谷、明神岳などが見える。富士山は見えるが中段の雲はなかなか取れない。長い間、昼食と富士山観察に費やした穏やかな時間を過ごした。「ミツマタ」が多く保護されている。14時20分無事登山口着。

下山後は足柄城址から見る富士山は残念ながら雲の中。金時山尾根のトンネルを通り、仙石原、関所や杉並木を経て芦ノ湖畔・箱根駅伝起点で休憩して箱根新道・相模湾西湖バイパスを経て海老名着（18時30分）。

短い期間ではあったが、宮崎の仲間たちと懇親が深められ、10年滞在の思い出がこみ上げてきた。ザックを背負うとまだまだ登れる。今年度は宮崎の低山を妻と歩きたいと思っている。

＜参加者4名＞栗林淳子・橋口三枝子・武田芳雄・畑島良一
＜コースタイム＞万葉公園登山口9:20～山伏平11:00～山頂11:45（昼食）12:40～登山口14:20

山伏峠から見た富士山

矢倉岳山頂

畑島さんへ感謝

今回、神奈川での全国支部懇談会が行われることになり真っ先に思い起こしたのは畑島さん。神奈川在住で今から12年前、宮崎支部に入会された。それから10年間宮崎支部で山行委員長としても活躍されていた。2年前から静岡に住居を移され現在、浜名湖の近くで登山はもちろん魚釣り、家庭菜園など自然と触れ合いながら神奈川との2拠点生活をエンジョイされている。

今回、早速連絡を取り相談すると快く山の案内、送迎、ホテルの予約まで引き受けていただき、とても心強く山の仲間の温かさに触れた思いです。畑島さん、楽しいひと時をほんとうにありがとうございました。
（武田・栗林・橋口）

［5月定例山行-1］　赤川浦岳　5月11日（土）

橋口　三枝子

赤川浦岳（1,231m）は高千穂町五ケ所にあり祖母山系の西側に位置する山である。ヤマダ電機駐車場を6時30分、4名にて出発する。高千穂町の四季見原キャンプ場と書かれた案内板から九州自然歩道を行く。進むにつれ道はくねくねと狭くなる。親父山登山口を過ぎ黒原越登山口に10時15分に着く。標高950mの登山口からは雄大な阿蘇の山並みが素晴らしい。天気にも恵まれ、緑のシャワーを浴びながら若草色がまぶしい。両側は斜面となった尾根歩き。片側はスギ、ヒノキの人工林で高千穂町有林とある白い杭が随所にあり山頂まで案内してくれる。もう片側はブナ、カエデなどの自然林となっている。風が強く木々がゴォーゴォーと音を立てている。登山道からの展望はあまりないが所々開けた所から覗き見る祖母山などの山並みが嬉しい。大岩を巻いて登るその上にはミツバツツジが名残惜しげに咲いていた。山頂に11時50分、展望はなく風も強いので記念写真を撮り20分程下ったところの展望のいい所で昼食。そこから少し下った所に脇道があり案内板はないがガイドブックにある岩の展望台ではないかと登って見ると、そこから松の木越しに北に筒ヶ岳から祖母山・黒岳・親父山と連なる絶景を見ることができた。

この赤川浦岳のコースは高低差（280m）はあまりなく、短時間で登れる簡単なコースだろうと思っていたがアップダウンを5回繰り返す、それもかなりの急坂である。やはり、楽して登れる山はないと、それゆえ達成感も増す。魅力的なコースで新緑に元気をもらった登山であった。帰路は三秀台に立ち寄り、阿蘇、九重、祖母の山系を眺め登ってきた赤川浦岳のなだらかな山容もしっかり見ることができた。

＜参加者4名＞橋口三枝子・日高研二・武田芳雄・山上章二

＜コースタイム＞ヤマダ電機駐車場6:30～よっちみろ屋8:40/9:00～赤川浦岳登山口10:18/10:30～山頂11:50/12:00～12:20（昼食）12:45～登山口13:40/13:50～三秀台14:05/14:40～よっちみろ屋15:30～ヤマダ電機駐車場17:50

赤川浦岳山頂

［5月定例山行-2］　大幡山　5月26日（日）

蔵屋　とよ

ミヤマキリシマの花を目当ての山行で霧島大火山群、丸岡山と獅子戸岳の中間に位置する大幡山へ出向く。あいにく全国支部懇談会とも重なり、また天候も曇りの予報。参加者は会員外の1名を含め4名だったが少人数なりの無理のないペースで行こう、との言葉に気分が落ち着く。7時、大淀川河川敷を出発し夷守台登山口駐車場着。夷守台登山口を8時45分出発。ここから今回のコースの半分を占める約2.5Kmの林道をのんびりと歩く。久しぶりの山歩きにちょうど良い負荷を感じる。9時30分、約1時間で大幡山登山口に着いた。木の階段から始まり、登りが始まる予感。途中、大幡池からの灌漑用水路が現れ、またいで渡る。また標高1015mに山ノ神・休憩所の大岩あり。そこから急登が1時間ほど続いたあと徐々に林道の尾根歩きになる。オレンジがかった山ツツジが霧の中に浮かぶ。ようやく開けたところに出たが辺り一面霧の中で、木々に溜まった露が雨のように落ちて髪を濡らした。霧と風の中の稜線を歩き、徐々にミヤマキリシマの数も増え濃霧の中にも鮮やかな色が広がっているのがわかる。11時45分、頂上に着いた。晴れていれば高千穂峰の美しい姿が目の前に望めたのだろう。視線を変えれば大幡池、韓国岳、獅子戸岳が見えるはず。真っ白の景色の向こうに広がる眺望を想像し再度挑戦したいと思わずにいられなかった。昼食のあと雨を待たず早々と下山し14時30分登山口駐車場着。帰路につく。

〈参加者4名〉蔵屋とよ・日高研二・山上章二・（会員外）小斉平

＜コースタイム＞大淀川河川敷駐車場7:00～夷守台登山口駐車場～8:45～大幡山登山口9:30～山ノ神休憩所10:05～大幡山山頂～11:45～大幡山登山口13:45夷守台登山口駐車場14:25～大淀川河川敷駐車場17:00

濃霧の大幡山山頂

【6月定例山行】荒平山・丸目岳　6月8日（土）

服部　岩男

前日は雨の予報だったが予定通り決行する。8時40分清武ナフコを出発する。荒平森林公園の看板を過ぎると、すぐに第二駐車場に到着するが、草が茂っていたので第一駐車場に行きそこから登山開始とする。駐車場はきれいなトイレも整備されており良かった。登山道は林道ぐらい広くよく整備されている。なだらかで登りやすい。25分ぐらいで荒平山山頂（602.9m）に着く。名前とは逆に穏やかな山だ。記念写真を撮り丸目岳に向かう。少し下ってから登りかえすと中の辻（605m）という山である。そこからさらに下ると少し急な登りになる。山頂に近づくと岩場ではないのだがロープに掴まらないと登れないぐらいの急坂だ。下りは大変だなぁ～と思いながら登った。すぐに今泉神社古跡と彫られた立派な石碑と祠があった。大きな石をよく運び上げたものだと思うが直登でなく、回り道をして運び上げたのだろう。平坦な道を進むと、すぐに丸目岳山頂（613.8m）に着く。山頂からは展望はなく、ただ四等三角点と小さな丸目岳の看板があるだけだった。

今泉神社古跡

下山ではロープ場は足がかりもなく落ち葉が多く滑りやすく、頼みのロープも8mmで細く、せめて10mmは欲しい。かなり気を付けて下った。後は危険な場所はなく1時間ほどで登山口に着いた。山では花が咲いてないとさみしいが、登山口近くでは赤いツツジとアジサイがたくさん咲いていた。紫色のウツボグサも見ることができた。駐車場に着いた途端に雨が降りだしたのでナフコに戻り解散となった。今回の山は低い山で2時間半程の行程だったが思っていたより達成感もあり楽しく、良い運動にもなった。可能な限り全ての山行に参加したいと思う。

＜参加者8名＞清家順子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男

＜コースタイム＞清武ナフコ駐車場8:30～荒平森林第二駐車場8:50～第一駐車場9:00/9:20～荒平山山頂9:45～丸目岳山頂10:40～第一駐車場登山口11:41～清武ナフコ駐車場12:20

荒平山山頂

【7月定例山行】蓮ヶ池史跡公園　7月28日（土）

栗林　忠信

熱中症警戒アラートが連日出され、外出するのも躊躇する程の暑さが続く中、今月の定例山行は宮崎市芳士にある蓮ヶ池史跡公園であった。蓮ヶ池史跡公園は、宮崎市街地から直線距離で北に6kmほどの位置にあり、海岸から約3km、東西/南北約700m、標高60mの小高い台地に、竪穴住居や高床式倉庫、厩舎などが再現されていて、蓮ヶ池横穴群には約80基の横穴墓があり、横穴群の日本南限として昭和46年7月に国の史跡に指定されている。

午前9時に現地駐車場横の茅葺屋根の厩に集合した。会員外の門川さん以下、13名が参加したが、私を含めて参加者の殆どがこの地の存在を知らなかった。厩の前の田池には蓮がピンク色の花を満開に咲かせ、その花をバックに集合写真を撮り、散策開始となった。

御諏訪池の畔にそって遊歩道があり、しばらく歩いて行くと横穴群が見えてきた。横穴とは5世紀後半から8世紀ごろの古墳時代中期から奈良時代にかけて日本各地で造られたお墓で、蓮ヶ池の横穴は山の斜面の岩盤を削って造られ、多くの横穴が斜面の南向きに入り口が開いているという。更に進むと、「古代住居」の標識があり、その名の通り古代住居が復元されていたが、朽ち果てて骨組みだけになってしまった高床式倉庫、竪穴住居が散在していた。

しばしの探索の後、御諏訪池の東側の丘陵の登山開始。山とは言っても標高70m程の小高い丘陵で、階段も整備されており、程よい散歩コースであった。とは言え、30℃以上の真夏日の、170段の階段はこたえる。東側丘陵を一回りして田池の横の東入り口に下山したが、そこ

で遅れて参加の武田会員と合流。東側丘陵を登り返し外周コースを中央広場に向かう。10分ほどで上り詰め、緩やかなアップダウンの続く尾根歩きとなる。板根にしっかり支えられた大きな椎の木が何本もあったり、鹿の食害のない緑豊かな山道で、時折聞こえてくる車の音が無ければ何処か山奥を歩いているようだ。20分ほどで右手の崖に横穴墓、左手にせせらぎ水路や東屋のある綺麗な中央広場に出る。そこで、埋葬の様子を復元してある横穴墓を見学したりして小休止。

その後、前方後円墳の丘を回り込み崖に並ぶ保護の為閉じてある横穴墓を右手に見ながら西の端奥の石塔の原っぱを目指す。いつの時代のものか五輪の石塔がたくさん並べられている広場を周り、中央広場にもどって風の通る木陰で昼食をとり、山の日にあわせて行う「ときめき家族登山in高房山」についての話し合いをして13時前解散となった。今は綺麗に整備され市民の憩いの場、かつてはみやざき歴史文化館での学びの場でもあったが、元々は7世紀飛鳥時代の墓場。この地に横穴を掘り死者を葬った当時の人々の生活や死者への思いを想像しつつ歩いてみると、また違った風景が見えてくるのではないだろうか。

＜参加者13名＞清家順子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・服部岩男・川越政則・栗林忠信・(会員外)門川

＜コースタイム＞蓮ヶ池史跡公園9:00～遊歩道入口9:30～中央広場10:50～石塔の原っぱ11:25～昼食11:40～解散13:00

横穴

石塔の原っぱ　五輪塔

【9月定例山行】巣之裏川大滝　8月24日(土)

弓削 達雄

山好きな私は霧島連峰については総じて知っていると考えていたが、小林市の観光名所となっている巣之浦川大滝が連峰北面の生駒高原近くにあることは知らなかった。山岳会の案内で初めて確認し今回参加することにした。大淀川ゴルフ場駐車場に8時に集合し4台の車に分乗。(私は一人乗り)小林市の生駒高原駐車場に向かった。生駒高原駐車場で今回初参加の2人と合流する。参加者は14名(男8人、女6人)。リンゴ園から少し林に入った林道脇に駐車する。

武田さんの先導で出発。高い杉林のゆるやかな登り坂を歩いていると誰かが「300m登らんといかんげな」と言ったので私はびっくり、100m程度の登りと考えていたので。高齢の私は杖をついて皆さんに遅れないよう頑張った。約4kmの林道歩きを終え登山道に入る。登って行くと巣之浦川の対岸に時々小さな滝が見られ2つ並んだ夷守岳夫婦(めおと)滝も見られた。2時間近くかかって大滝手前の小川にたどり着き小川を渡って巣之浦川大滝に出たが足元の火山礫が不安定で転ばないように用心しながら大滝を眺めた。落差50m幅30m程の円形の大滝の落水の素晴らしさをしばらく堪能。集合写真を撮った後、小川の所で昼食をとり、ひたすら林道を歩き、ゲート近くの駐車場に無事到着。楽しい滝見の山行だった。帰路に梨園に立ち寄り、ブドウ、ナシをお土産に買って帰る。

＜参加者14名＞清家順子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・前原満之・日高研二・武田芳雄・櫻木勉・服部岩男・弓削達雄・四宮林三・山上章二・(会員外)柏田・児玉

＜コースタイム＞大淀川河川敷駐車場8:00/8:20～ゆーぱるのじり9:00～生駒高原9:40～林道脇駐車場10:00～登山口11:50～巣之浦川大滝12:30/12:50～12:55昼食13:20～登山口13:40～種田ナシ園～大淀川河川敷駐車場16:50

圧巻の巣之裏川大滝をバックに

【自然保護委員会】

双石山小谷登山口植栽樹木下草除去作業　7月20日(土)

多田 周廣

市山岳協会主催で双石山登山道植栽下草刈り作業が行われた。当初の予定では7月13　日(土)実行の作業であったが当日雨天の為20日に延期実行となった。全体の参加者は32名であった。顔ぶれを見るとほとんどがいつも参加しておられる中高年のメンバーで、今回は特別に市役所関係の方が2名参加しておられた。

私の登山の始まりは、中学時代に初めて登った双石山であった。頂上へ登頂したとき一人前の岳人になったような気持ちになった。そしてそこからは見えないが宮崎の秀峰霧島の山々への挑戦の夢が日増しに大きくなっていった。

私はここ6～7年前から体調の関係で双石山に登れていない。しかしこの山の作業に来るたびに大岩展望台手前の急登辺りはその後どうなっているだろうか?　山小屋手前近辺に咲くヤッコソウは季節に可愛い姿を今でも見せているだろうか?等々、双石山に対する愛着は今でも他の人々に負けてないと思っている。老いた身に汗して作業している参加の皆さん達も私と同じ思いであろう。

大きくなったアジサイの剪定

22年前、定年で宮崎に帰って最初に向かった山も双石山だったが、小谷登山口の風景の様変わりに驚く。以前は登山口を登り始めるとすぐに鬱蒼とした杉林の中で“さあ登るぞ”と心地よい緊張感があった。双石山の登山道は今でも杉林の中のスタートに始まり杉林の中で終わるのが良いと思っている。市の関係者とそんな話をしていると　一部個人の持山で伐採(利益の面等で?) になったのでしょうとの返事であった。

本日の作業は登山口近辺のアジサイの剪定でご婦人方と一緒に作業した。(殆どの男性は更に上層部の剪定にあたった)　一時間半くらいの作業であったが、登山道脇の花はすべて綺麗に剪定された。登ってくる登山者は、「ご苦労様です」と声を掛けて登って行く。「気を付けて」と声を返す。　汗だくであったが気持ちの良い時間であった。

最後に市の方から加江田渓谷コースにある「多目的広場」の新しい名称を募集することになったので多くの方に応募してほしいとの話があった。

＜参加者7名＞服部澄子・橋口三枝子・日高研二・武田芳雄・服部岩男・川越政則・多田周廣、下準備(7/8)前原満之・荒武八起・服部岩男・川越政則)

オオマツヨイグサが青空に映える

「伊東氏全盛の48出城」を歩こう会

高山歩きが出来なくなった日本山岳会宮崎支部高齢者の体力維持のため1500年代の約200年間で日向の国に残した伊東一族48の城跡を訪ねてみようか、という会である。

伊東家は平将門の乱(939～940年)で活躍、源頼朝より日向の五カ所の管理を任され6代当主の伊東祐持(すけもち)から日向入りとなった。その後、約350年間特に島津氏との領土争いを繰り返し、又、身内との争い等も重ねた。永禄3年(1560)日向をまとめた伊東義祐は永禄11年(1568)島津より飫肥城を奪い48城の城持ちとなり一族の最盛期を迎えた。しかし1571年島津氏との争いに大敗・身内・家臣の寝がえり等々で急速に衰退、天正5年(1577)12月豊後大友宗麟を頼って雪の降る九州山中を落ちていった。その子女を伴った逃避行(10日間で300㌔歩く)は悲惨なものであった。その後義祐は流浪の身となり天正13年大阪堺で73歳で死亡。

歴史の48城、その後は地方自治体の手で立派に保存されているところもあるが、跡形も無い城跡もある。

多田 周廣 記

【個人山行】　3年ぶりの南アルプス　R5年8月25日（金）～9月4日（月）

武田 芳雄

百名山を目指して毎年挑戦していたが、コロナの感染を恐れて登山を控えていた。しかし、コロナは5類移行により規制が緩和されたので3年ぶりに再開した。会社の仲間の協力で、8月末から9月初めの休みをもらい鳳凰三山、北岳、間ノ岳、塩見岳と計画したが、三伏峠小屋がパソコン予約で、試してみたがうまくいかず、塩見小屋だけだときついと思い塩見岳は断念して、天城山を入れた。先に北岳、間ノ岳。その後鳳凰三山、天城山とした。

フェリーは新造船になっており、船内は快適に過ごせたが、降りてからの陸路が大変であったが、何とか芦安駐車場に着く。レストラン、温泉、宿泊できるハウスがあり、立派なトイレも設置されている。夜、雨が降り雷、稲光がする。えらい日に来たものだと思ったが、いつもの事らしい。熊もどこかのベンチに子熊が座っていたという。熊は気になったがハウスの女性は「この先でも何回か見ますよ。上手に付き合わないといけないですね」と話される8月27日、05:15バスで出発。06:15広河原到着。09:10白根御池小屋。池の周りにキャンプ場あり。13:30北岳肩ノ小屋到着。たくさんのドラム缶がある。中身は水らしい。

8月28日、05:00朝飯の後、サブバックで06:00出発。10:00間ノ岳。11:40北岳山荘。13:40北岳山頂で弁当を食べる。14:45北岳肩ノ小屋に到着。

北岳

8月29日、広河原に下りタクシーで駐車場へ。芦安に来る前、コンビニとコインランドリーを見つけていたのでそこまで下り、用事を済ませる。8月30日、バスで出発。夜叉神峠登山口で降り、南御室小屋向け登る。07:00夜叉神峠小屋。11:30南御室小屋到着。親同伴の子供たちが来てテントを張る賑やかな声がする。この小屋の燃料は薪を使うようである。他の小屋では水は有料だがここでは無料なのがありがたい。水場、トイレ、炊事場の水は常時流れている。8月31日朝食はお結びで弁当はアンパン、チーズパン、チョコ、菓子類。05:30出発。07:00薬師岳。07:40観音岳。09:10地蔵岳山頂は小地蔵様がいくつも祀られている。オベリスクと言われる大岩柱（高さ18m）に途中まで登ってみるが下りに手間がかかった。12:00薬師岳でお菓子の昼食。

地蔵岳のハイマツの緑とのコントラストが美しい地蔵仏岩、オベリスクと呼ばれている。

13:45南御室小屋到着。9月1日、05:30出発。10:00夜叉神峠登山口到着10:40バス乗車。11:25芦安駐車場到着。ハウスで温泉と昼食を済ませる。13:00出発。道の駅白根でお土産を買う。19:15芦ノ湖畔の道の駅箱根峠に着く。

9月2日、伊豆スカイラインで天城高原ゴルフコース駐車場に着き、前の登山口を08:10出発09:40万二郎岳。11:00万三郎岳。14:00駐車場到着。18:30道の駅富士に到着。9月3日、05:45出発。早朝の1号線を走る。浜松に入ったところで畑島さんに連絡。浜名湖の近くに住んでおり、借りている畑を見せてもらう。管理小屋があり、貸主の奥さんは鹿児島出身らしい。近くから高速に乗り、神戸フェリーに乗船できた。9月4日、宮崎港に着く。10泊11日の山旅、事故やけがもなく無事に終えることが出来良い思い出が残せた。

✎ エッセイ

優さんの思い出

永峯 麗子

家庭裁判所の家事調停委員をしながら保護司としても働いていたある年の宮崎地区保護司総会で、新任保護司の紹介があり前に10人位ならんでいらした中の1人が優さんだった。面識はなかったが優さんは何かと有名な人で知っていたので、私は山が好きで1人で山を歩いていますと言ったら「うちの会に来なさい」と言ってくださって、皆様のお仲間に入れていただいたのであった。

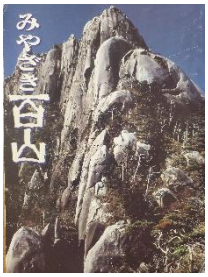
当時は優さんの勤務する県警本部は県庁の1階にあった。私は調停が午前中で終わった時等、裁判所の門を出て楠並木の下をてくてく歩きバス停に向かう途中、県警本部に立ち寄りドアを開けると優さんが「メシ食いに行こう」と立ち上って来た。二人で県庁の地下の食堂でご飯を食べながら話をすることは山のことしかなかった。県庁の地階の御飯は結構おいしかった。いつも優さんにご御馳走になり今思うと大変散財かけてしまったと思っている。

当時、優さんは『みやざき百山』の原稿を抱えていた。私たちも手伝うからその本早く完成しようという事になり優さんを中心に宮崎百山編集委員会が立ち上がり或る時は再確認の為に1日に3山ぐらい山を歩いたこともあった。それぞれ得意の分野があり賑やかに有意義に進行して、私の記録によれば大谷邸に78回集まり編集作業をした。その日の作業が終われば後の楽しみは呑み会である。セッちゃん（奥様）の石蕗の油炒めは絶品であった。川畑さんは川畑鍋を作り私はポテトサラダを作った。都甲さんはいつも綺麗な花束を持ってくる人であった。和気藹藹(あいあい)と盛り上がった頃、突然、優さんが掃除機をぶんぶん鳴らして皆の間をごしごしし始めるのであった。みんな帰れの合図である。有無を言わさずみんなは這這(ほうほう)の体(てい)で帰るのであった。そうでもしないと大谷邸は酒はうまいし御馳走もあり、ついつい長居になってしまいがちではある。仲よし山の仲間なのである。こうして『みやざき百山』著者大谷　優は平成12年11月1日発行された。

次は「峠」を書きたいと言っていたのに優さんは病に倒れたのである。優さんの旅立ちの日、私はそのなきがらに浴衣をかけてあげた。セッちゃんがきれいに畳み優さんの足もとに置いておいたものであった。昭和41年椎谷峠が開通する前に九州山脈脊梁縦走登山隊の一員として向坂山から市房山までの長い稜線縦走に参加した優さんが書きたかった椎谷峠に今も筑紫唐飛廉(つくしとうひれん)の花は咲いているだろうか。

大谷 優氏

宮崎支部 第二代支部長
（1994年4月～2004年8月）



完成した みやざき百山

静かなりただ静かなりこの夕べ
　　山の鼓動は地の下にあり

石蕗の明るく晴るる花あかり
　　山の朝日の重たく移る

いつの日か相いまみえんと山桜
　　植えたる山の地面踏みしむ

大谷 優

筑紫唐飛廉（つくしとうひれん）

小学生のわれらも山より木を運び
　　校庭の窯にて炭焼きたりし

特攻機の飛び立つ鹿屋に近く住み
　　日の丸の旗を振りし悲しみ

紫苑の花飾りて待てば後(のち)の月は
　　光しらじらとリビングに照る

大関霧島の古里モンゴルに咲くといふ
　　紫苑の花をまぼろしに見る

永峯 麗子

［事務局だより］

支部行事予定表（9月～12月）

月　　日	行 事 名	備　考
9月5日（木）	298回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
9月14日（土）	定例山行 御岳（鹿児島市鹿屋市）	清武ナフコ駐車場6時30分出発
9月22日（日）	定例山行 飫肥街道（北郷町）花立～山仮屋	清武ナフコ駐車場8時出発
10月3日（木）	299回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
10月13日（日）	定例山行 藺牟田池外輪山（薩摩仙台市）	清武ナフコ駐車場6:30分発
10月26日（土）	定例山行 竜峰山、竜ヶ滝（熊本県八代市）	清武ナフコ駐車場6:30分発
11月3日（日）～4日（月）	宮崎ウエストン祭・記念登山（祖母山周辺）	
11月7日（木）	300回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
11月16日(土)～17日（日）	公民館祭り	宮崎市中央公民館
11月23日（土）	山の日イベント 双石山周辺	宮崎市山岳協会主催
12月5日（木）	301回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
12月7日（土）	清掃登山　双石山周辺	
12月14日（土）	宮崎支部山岳会忘年会	

支部会務報告（5月～8月）

月　　日	事業・行事	開 催 場 所	人員	備　考
5月2日（木）	294回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
5月11日（土）	定例山行 赤川浦岳	高千穂町	4	
5月22日（水）	支部報発送作業	活動センター	6	
5月24日（金）	記念登山	矢倉岳（神奈川県）	4	
5月25-26（土・日）	全国支部懇談会	神奈川県（26日）鎌倉散策	3	神奈川支部主催
5月26日（日）	定例山行 大幡山	小林市	4	
6月6日（木）	295回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
6月8日（土）	定例山行 荒平山・丸目山	清武町	8	
7月4日（木）	296回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	15	
7月20日（土）	双石山下草刈り	双石山	7	市山協会主催（総32名）
7月28日（日）	定例山行 蓮ヶ池史跡公園散策	宮崎市	12	
8月1日（木）	297回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	14	
8月11日（日）	ときめき家族登山in高房山	高岡町	23	会員17名　他 6名
8月24日（土）	定例山行 巣之裏川大滝	小林市	14	
8月31日（土）	支部報編集作業	活動センター	5	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願いします。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内　配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

今年の宮崎の夏は正に異常。まず7月から猛暑の連続。8月8日は最大震度6弱の日向灘地震発生。8月11日はときめき家族登山を予定、山行中の余震発生も考慮し中止も考えたが、十分な事前調査をしており6年ぶりに実施した。最後は8月末の大型台風10号。県内各地で大雨や竜巻による被害が発生した。被災された方々には心からお見舞い申し上げたい。これから我々の支部活動も自然の影響を受けることが多々あるかと思いますが、優しい恩恵を感謝できる自然であってもらいたい。9月は比較的楽で楽しい「薩摩街道」道歩きもあります。会員の皆さんの多くの参加をお待ちしています。（日高）

公益社団法人　日本山岳会宮崎支部報 85号
発行責任者：日高 研二
編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ
事務局：橋口三枝子
〒880-0930　宮崎市花山手東3丁目11-6
Tel,Fax 0985-51-4179, 090-7450-6406
E-mail: hashimie2713@gmail.com
口座：郵貯銀行　記号　17310　番号16269811
名義人：（社）日本山岳会宮崎支部